

# 農業を通して食農教育も 子供達に貴重な体験を させてあげたい！

ボイスカウト・ビー・バー隊の隊長として大活躍



山口さんが農業を本格的に始めたのは約3年前。きっかけは、「先祖代々の土地を守りたい」との思いから。幼いころから手伝いなどはされおられましたが、退職を機にお母様の実家の畑を受け継がれました。現在は、試行錯誤しながら農業をされています。畑にはレモンやスダチ、花柚子、イチジクなどの果樹や白菜、サツマイモ、キャベツ、ブロッコリー、ネギ等、季節に応じて少量多品種の野菜や果実が元気に育ち、緑色だけなら殺風景だと思い、お花なども栽培されていて、とても華やかな畑です。

美味しい野菜を作る為には、  
手間をかけること。

極力農薬を使わないように栽培されている為、約2時間かけて害虫をピンセットで取つたり、畑に悪さ

をする地下茎の雑草（地下に球根を生やして生長するため、抜いても出てくる）の対処をすることもあります。畑を耕し雑草駆除するなど、手間をかけるからこそ、美味しい野菜が育つとのこと。「農業は体を動かすので健康的。これからも健康的に農業を続けていきたいです」と話してくださいました。

自然の風を受ける嬉しさ、楽しさが子ども達に伝わってくれたら、良いなあ。農作業を通して食農教育も…



山口さんは早や30年以上、ボイスカウトの活動をされています。今では、ビー・バー隊（小学1年生～2年生）の隊長を務め、地域の清掃活動やハイキング、小川での川遊びでは、実際にレンガや石、土を使用してダムを作り、石だけでは水を



▶  
青空の中で  
ビーバー隊が  
いもほりを体験



地域の農を支える生産者

箕面市牧落地域

やまぐち はるひさ

山口 晴久さん

(63歳)

せき止めることが出来ないこと等をビーバー隊の隊員に体験させてあげたりしています。

他にも、山口さんはあえて、実際の生産モ掘り体験も実施。幼稚園で芋ほりを体験したことがある隊員もありますが、幼稚園では児童が掘りやすいようにしている環境が多いので、山口さんはあえて、畑で本格的な掘り方を体験させています。土を掘ると、ミミズや虫も出てくるし、隊員の家族も一緒に作業することで、「みんなで収穫が出来たら嬉しいな」とか「家族で収穫したサツマイモを一緒に食べたら美味しいな」ということを感じてもらいます。ちなみに、山口さんが幼い頃に初めて教えてもらった農作業もサツマイモの収穫だったそう。

今日は何をする時かを考え、  
体験を通して視野を広げて  
くれたら…

「そなえよつね」がボーキスカウトのモットーです。何ごとに対してもいつも必ずやり通すという準備を常にしておくという意味。いつも心にも体にも、技にもすきのないよう、どんなことにも応じることが出来る心構えをもつて「さあいい、準備はできている」ということを表します。

ただ、ビーバー隊には少し難しい

今は何をする時かを考え、  
体験を通して視野を広げて  
くれたら…

「そなえよつね」がボーキスカウトのモットーです。何ごとに対してもいつも必ずやり通すという準備を常にしておくという意味。いつも心にも体にも、技にもすきのないよう、どんなことにも応じることが出来る心構えをもつて「さあいい、準備はできている」ということを表します。

「外で遊ぶ楽しさ、自然の貴重さ、珍しさを経験し、視野を広げてくれたら嬉しいです。感じ方はいろいろ。様々な貴重な体験をさせてあげたい！」と話される山口さんの今後の活躍にも注目ですね。

ので、山口さんは「今は何をする時かな？歩く時、食べる時、遊ぶ時？」自分で考えて」ということを教えています。何に注意をしないといけないのか、土を触るだけでも、どんな虫がいるのか、畑に入るだけでも危険なことはあるので、やつてはいけないことやルール等、伝えています。そのことを覚えていたり、頭の中に入っていると、「そなえよつねに」ということに繋がります。

山口さんが教えた隊員の中には、すでに成人し、リーダーとしてボイスカウトの活動を支えている方もおられます。

数ある思い出の一つに、仕事の都合で単身赴任をし、7年程ボーキスカウトの活動に参加出来なかつた時期がありました。帰ってきた時には、当時ビーバー隊だった隊員が中学生や高校生に。町で偶然会い、その隊員が元気に挨拶をしてくれたことに、山口さんは「普通の人なら気づかないふりし、挨拶をしなくてそのまま通り過ぎてもいいものなの」と言ったところ、「リーダーからはそんなこと教えてもらっていました。挨拶しなさいと教わりました」と言つてくれました。